



# 土橋の子

平成 25 年度 1 月号  
第 1 2 1 1 号  
日置市立土橋小学校  
平成 26 年 1 月 23 日 発行

## 正直さと「人間分子の関係、網目の法則」

先週は、奇しくも「正直」とか、「誠実さ」といったことについて考える週となりました。

火曜日。正門に並べてある鉢が二つ割れていました。車が当たったのではないかと思われる。鉢の欠片などは傍らの植込みに入れてあったので、ドライバーは割ったことに気付いたものと思われる。しかし、何のご連絡もありません。「せめて電話一本あってもいいのではないかなあ。」とは職員同士の会話です。残念なことに、これまでに何度かあります。

水曜日の昼休み。具体的には書けませんが、ある「いたずら」がされていることに気付きました。誰がしたのかはすぐに分かりましたが、「正直に申し出てくれたら…」と考え、翌日対応することにしました。しかし、すぐに解決しました。放課後、関係した子ども達が幼稚園で作業をしていた私のところに謝りに来たからです。その10分ほど前に幼稚園前の道路で、「さようなら」の挨拶を交わしたばかりの子ども達でしたが、また正門へ回って戻って



来たのでした。そして、「校長先生。」と呼び掛けた子ども達は、言葉を絞り出すようにして「すみませんでした。」と言いました。そこに来るまでに、謝ろうか、叱られるんじゃないかなどという相応の葛藤があったことでしょう。「どうして、したの？」と尋ねると、「楽しかったからです。」とこれまた正直に答えてくれました。そこには

「いたずら(人に迷惑を掛ける行為)をしている」という意識はなく、少しだけ考えが及ばなかったようでした。そこで、「誰がどんな思いで、これ(いたずらの対象物)を置いたか」「汚してしまった所を誰が掃除するのか」などについて語り合いました。すると、一つの物(いたずらの対象物)が他の人に繋がっていること、自分達の行いが人に迷惑を掛けたり、悲しい思いをさせたりするものであったことに気付いたのでしょいか、子ども達の目にはジワーッと光るものが滲み出てきました。してはならないことをしたという事実はたしなめながらも、勇気を出して正直に申し出たことはよいことだと話すことでした。

…脱線しますが、繋がりと言いますと「君たちはどう生きるか」(吉野源三郎著、岩波文庫、1937年)の主人公コペル君の言葉を思い出します。コペル君は、ある日、「すごい発見」をして叔父さんに手紙を書きます。それは、子どもの頃に飲んでいた粉ミルクが、オーストラリアの牧場で作られてから家に届くまでに多くの人々が繋がっているという発見です。そのことを「牛の乳をしぼる人→工場に運ぶ人→粉ミルクにする人→缶に詰める人→鉄道に運ぶ人→汽車の人→港の人→船の人、更には日本に着いてから荷降ろしをする人→運ぶ人→売人、広告する人、小売りの薬屋の人→薬屋の小僧というふうに、長い長いリレーが続いていることになるでしょう。つまり、工場や汽車を作る人まで考えれば、何千何万という顔を見たこともない人たちが、粉ミルクの缶を通して、僕につながっているのに違いありません。」

※登下校や休日は、交通安全に十分気をつけ、交通事故に遭わないようにしましょう。また、不審者にも十分気をつけ、一人で遊んだり、道路を歩いたりしないようにしましょう。

と記しています。そして、粉ミルクだけではなく、どの品物の後ろにも、たくさんの人間がつながっていて、人間は会ったこともない大勢の人と、知らないうちに網のように繋がっていると考え、これを「人間分子の関係、網目の法則」と名付けます。

コペル君が考えたように、社会における事象には様々な「繋がり」があります。その「繋がり」が見えることで、自分との関わりが見え、自分との関わりが見えることで初めて、その事象との関わり方など自分の本来取るべき所作を考えることができるのではないのでしょうか。「繋がり」が見えるということは、とても大事なことだと思います。

木曜日の朝。今度は、別の子が担任に付き添われて校長室を訪れました。そして、一人で入って来たその子は、自分から「校長先生、ごめんなさい。」と話を切り出しました。前日、何気なく触っていた掲示物を誤って破ってしまったらしく、気になって夜も眠れずにいたとのこと。この子にも「繋がり」が見えていたんだなと考えることでした。

火曜日の出来事から始まった週でしたが、2日連続での正直な子ども達の姿に、何となくほっとする週となりました。

## 引き続き、ペースメーカーとなって...



平成 24 年 6 月号で、「登下校中の子ども達を見掛けたら、減速、或いはよけて通行するなど、後続車両のモデルとなるような運転を」とお願いいたしました。そうしたご協力や日置警察署のパトロール、取締等の成果か、以前に比べますと、子ども達の傍らを猛スピードで過ぎ去る車両は格段に少なくなったようです。今後も引き続き、他の車両を感化するような「ペースメーカー」となって運転していただきますよう、切にお願いいたします。

## 土橋地区公民館新年式典

1月1日(水)、上土橋公民館で土橋地区公民館新年式典・祝賀式が行われました。山下公民館長をはじめ、各自治会長、土橋小・中学校長やPTA会長、地域の方々など約30人が参加し、新たな一年へ向けて心持ちを新たに、一層の飛躍を誓いました。



来賓祝辞の後、小・中・高校生代表者がそれぞれ新年の抱負や目標を述べ、小学生の代表として6年生の 君が、中学校に進学して努力すること等について堂々と発表しました。

土橋小の子ども達も一年の計画を立て、大きな抱負や夢を抱いて新しい年を始めたことでしょう。みんなが新たな気持ちで新年のスタートを切り、今年が充実した一年になるよう願っています。

